

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 3 後悔	過去の選択や出来事に対する単なる自己否定や無力感への逃避ではなく、自らの不完全さを認めつつも、世界で起きた出来事を自分事として引き受け、より良い自己のあり方を主体的に模索し続けようとする前向きな倫理的態度として捉えられる。
問2	答え 1 第二反抗期	青年期には、他者への依存から脱却し、自己の主体性を確立するプロセスとして、親や年長者、社会的権威に反抗する時期が見られる。これは幼児期の第一反抗期に対して、精神的な自立を目指す重要な発達段階として位置づけられている。
問3	答え 2 防衛機制	自我が脅かされるような欲求不満や葛藤に直面した際、無意識のうちに不安を和らげ、自己の統合を維持しようとする心の働きを防衛機制という。精神分析の創始者であるフロイトによって見出され、その娘アンナ・フロイトらによって体系化された。これには抑圧、合理化、投影、昇華など様々な種類が存在する。
問4	答え 2 ベビーM事件	1980年代にアメリカで発生したこの裁判では、代理出産契約の有効性と子供の親権が争われた。ニュージャージー州最高裁判所は、金銭が絡む代理出産契約は公序良俗に反するとして無効と判断し、親権は依頼者側に認めたものの、代理母にも面会権を認めた。この判決は、生殖補助医療の進歩に伴う倫理的・法的な課題を世界に広く提起する契機となった。
問5	答え 2 社会型	シュブランガーは価値の志向性に基づいて性格を6つに分類した。そのうち、他者への同情や愛、社会への奉仕を重んじるタイプは「社会型」と呼ばれる。なお、真理の探究を重んじるのは「理論型」、実用性や経済的利益を重んじるのは「経済型」、美的な調和や表現を重んじるのは「審美型」、権力や支配を重んじるのは「権力型」、神や絶対者への帰依を重んじるのは「宗教型」である。
問6	答え 4 第二の誕生	著書『Eメール』において、青年期における自我の目覚めや精神的な変化を「私たちは、いわば二度生まれる」と表現し、これを「第二の誕生」と名づけたのはフランスの思想家ルソーである。青年期における身体的な変化を指す「第二次性徴」や、レヴィンが提唱した「マージナルマン（境界人）」、親や社会に反抗する「第二反抗期」などと区別する必要がある。
問7	答え 1 心理的離乳	青年期には、親の保護や支配から脱して精神的自立を求め、家族からの独立を図るようになる。この心理的プロセスを、ホリングワースは乳児の離乳になぞらえて「心理的離乳」と呼んだ。この時期の青年は、親への反抗や葛藤を経験しながらも、自己の主体性を確立していく。
問8	答え 3 基本的帰属の誤り	他者の行動の原因を説明する際、周囲の状況や環境といった外的な要因を過小評価し、その人の性格や態度といった内的な要因を過大評価してしまう現象を指す。例えば、他者が約束の時間に遅れた理由について、電車の遅延という環境的な要因を考慮せず、「本人のだらしなさ」という内的な要因に原因を求めることがこれに該当する。
問9	答え 4 エリクソン	アイデンティティ（自己同一性）の概念を提唱したアメリカの心理学者。彼は人生を8つの発達段階に分け、それぞれの段階における心理社会的危機を乗り越えることで人格が形成されると考え、青年期の主要な課題をアイデンティティの確立とした。
問10	答え 4 生命への畏敬	シュヴァイツァーは、自己の生命を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとする生命」を持っていると考えた。このすべての生命に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを「生命への畏敬」と呼び、人間の根源的な責任であると主張した。

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.7

名前

得点

/9

問1 現代社会における集団心理において、自らの思考停止や不安を背景に、強者や権威に対しては盲目的に同調する一方で、社会的少数者などの弱者に対しては根拠のない攻撃や迫害を加えるような、ファシズム受容の基盤となった心理的傾向を何というか。（2022年 全国公立入試 類似）

1. 循環気質的パーソナリティ 2. 権威主義的パーソナリティ 3. 粘着気質的パーソナリティ 4. 分裂気質的パーソナリティ

問2 人間が生活の中でどのような価値を重視し、追求するかという関心の方向性に基づいて、パーソナリティを理論型、経済型、審美型、社会型、権力型、宗教型の6つのタイプに分類する類型論を提唱したドイツの哲学者は誰か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. シェルドン 2. シュブランガー 3. ユング 4. クレッチマー

問3 青年期において、自己の容姿や能力などを他者と比較し、客観的な根拠が薄いにもかかわらず強い劣等感を抱いて悩む心理的傾向を何というか。心理学的には、無意識のうちに抑圧された感情や観念が複雑に絡み合った「感情の複合体」を指す言葉を答えよ。（2008年 全国公立入試 類似）

1. パーソナリティ 2. アイデンティティ 3. アンビバレンス 4. コンプレックス

問4 人間は本能的な欲望に流されやすく、放っておけば争いを引き起こす「悪をなす存在」であるが、自らの欲望から目を背けず、聖人が定めた外的な規範を内省の契機として自己を律することにより、後天的に善へと至ることができると主張した、中国・戦国時代の思想家は誰か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 莊子 2. 荀子 3. 墨子 4. 孟子

問5 人種やジェンダーなどによる歴史的・構造的な差別を解消し、実質的な機会均等を図るために、これまで不利益を被ってきた集団に対して、雇用や進学などの場面で一定の優遇措置を講じる暫定的な措置を何というか。（2016年 全国公立入試 類似）

1. ワーク・ライフ・バランス 2. ユニバーサル・デザイン 3. ソーシャル・インクルージョン 4. アファーマティブ・アクション

問6 「大学に進学して勉強したいが、学費を払うためにアルバイトばかりして勉強時間が削られるのは嫌だ」というように、一つの対象に対して魅力的な側面と、避けたい側面の両方が存在し、選択に苦悩する心理状態を指す、レヴィン（レビン）が分類した心理的状況の名称として最も適当なものを答えよ。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 接近-接近型 2. 接近-回避型 3. 二重接近-回避型 4. 回避-回避型

問7 青年期において、人は様々な欲求不満（フラストレーション）に直面する。その際、無意識のうちに不安や苦痛から自己を保護しようとする心の働き（防衛機制）が生じる。このうち、そのままでは社会的に認められない本能的な衝動や欲求を、学問、スポーツ、芸術活動といった、より高次の社会的価値をもつ活動へと向けることで克服しようとする心の働きを何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 抑圧 2. 昇華 3. 退行 4. 投影

問8 現代社会における労働は、賃金を得るための経済活動にとどまらず、多様な側面を持っている。オーストリア出身の思想家イリイチは、近代の産業社会において、賃金労働を成り立たせる前提でありながら、それ自体には報酬が支払われない、家事や育児などの不払い労働の存在を指摘した。このような、市場経済の影で社会を支える無償の労働を指す言葉として最も適当なものを答えよ。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ディーセント・ワーク 2. アンペイド・ワーク 3. ジェンダー・ロール 4. シャドウ・ワーク

問9 著書『孤独な群衆』の中で、社会の発展段階に応じて人々の性格を3つの類型に分類し、現代の大衆社会に生きる人々は周囲の他人の動向や期待に敏感に同調しようとする傾向があると分析したアメリカの社会学者は誰か。（2011年 全国公立入試 類似）

1. マルクーゼ 2. リースマン 3. テンニース 4. ヴェーバー

答え合わせ・解説 No.7

問1	答え 2 権威主義的パーソナリティ	エーリヒ・フロムらは、ナチズムを支持した大衆の心理を分析し、強者への服従と弱者への攻撃を特徴とする心理的傾向を「権威主義的パーソナリティ」と呼んだ。これは、自由の重圧に耐えかねて自律的な思考を停止し、権威に同調することで自己を正当化し、特定の集団を排斥・攻撃する心理メカニズムを説明するものである。単に不安を解消してくれる指導者を熱狂的に支持するだけでなく、他者への直接的な攻撃や迫害を伴う点が特徴である。
問2	答え 2 シュブランガー	人間が追求する価値（価値観）の置き方に基づいてパーソナリティを分類した。理論型は真理、経済型は有用性、審美型は美、社会型は愛や他者への奉仕、権力型は支配、宗教型は神や絶対的なものを追求するタイプとされる。
問3	答え 4 コンプレックス	青年期は自己意識が急速に高まる時期であり、他者との比較を通じて自己の能力や容姿に過度な劣等感を抱くことがある。心理学においては、無意識の中に抑圧された、感情と観念が複雑に結びついた複合体を指す言葉として用いられ、青年の自己形成や行動に大きな影響を与える。
問4	答え 2 荀子	人間の本性を悪（欲望に流されやすい性質）とし、後天的な努力（偽）や「礼」による矯正によって自己を律し、社会秩序を維持することを説いた。これは、自らの欲望という悪の根源を自覚し、外的な規範を契機に自己を律して善く生きるという倫理的態度を具体化したものである。
問5	答え 4 アファーマティブ・アクション	歴史的な経緯から生じた構造的な格差や差別を是正し、形式的な平等にとどまらない実質的な平等を達成するために導入される。これは固定化された格差を解消するための「暫定的な措置」であり、恒久的な優遇を目的とするものではない。日本語では「積極的格差改善措置」などとも訳される。
問6	答え 2 接近－回避型	レヴィン（レビン）は、同時に満たすことのできない複数の欲求の間で板挟みになる心理状態（コンフリクト）を、欲求の方向性（接近・回避）に基づいて分類した。一つの対象に対して、望ましい側面（接近）と避けたい側面（回避）が同時に存在して悩むパターンは「接近－回避型」と呼ばれる。
問7	答え 2 昇華	満たされない本能的欲求や衝動を、社会的に承認・推奨される価値の高い活動（芸術、学問、スポーツなど）に振り向けることで、健全な形で欲求を解消しようとする心の働きを指す。これに対し、自分の都合の良い理由をつけて正当化する「合理化」や、本来の欲求とは正反対の態度をとる「反動形成」、類似した別の目標で満足を得ようとする「代償」などがある。
問8	答え 4 シャドウ・ワーク	イリイチ（Ivan Illich）は、近代の産業社会において、賃金労働（ペイド・ワーク）の成立を陰で支えているにもかかわらず、市場価値が認められず無償で行われる労働（家事、育児、自己学習など）を「シャドウ・ワーク」と名付けた。これは、経済活動以外の側面や労働の多様性を捉える上で重要な概念であり、ジェンダーやケア労働の議論においても頻りに参照される。
問9	答え 2 リースマン	近代以降の社会変動に伴って、人々の社会的性格が伝統的な慣習に従う「伝統指向型」から、内面化された目標に従う「内部指向型」、そして周囲の他人に同調する「他人指向型」へと変化したと論じた。アドルノやフロムがファシズムを支えた権威主義的性格を分析したのに対し、大衆社会における同調傾向に着目した。

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 3 合理化	自分の思い通りにならない現実に対して、もっともらしい理由をつけて正当化し、自尊心を保とうとする心の働きを「合理化」と呼ぶ。提示された事例では、不合格という不都合な現実に対し、通学の不便さという理由をつけて自分を納得させようとしている。
問2	答え 2 他者の性格に対する推論とかかわり方	相手の性格を「気難しそう」「気が弱そう」などと主観的に推測（推論）し、その推測に基づいて自分の接し方（かかわり方）を変える心理的プロセスを指す。これに対し、目の前の高齢者に席を譲る行動は、相手の性格を推測した結果ではなく、「お年寄りには席を譲るべきだ」という社会的規範や状況に対する直接的な反応であるため、このプロセスには該当しない。
問3	答え 2 二重結果原則	緩和ケアにおける鎮痛薬投与のように、1つの行為が「苦痛の緩和」という善い結果と「死期の短縮」という悪い結果の双方をもたらす場合、悪い結果が意図されておらず、善い結果がそれを埋め合わせるほど十分に大きいならば許容されるとする。これはトマス・アクィナスの神学に起源を持ち、現代の生命倫理学でも広く議論されている。
問4	答え 4 ケアの倫理	ギリガン（Carol Gilligan）は、コールバーグの道徳発達段階説が男性的な「正義や権利」の基準に偏っていることを批判し、他者とのつながりや配慮、具体的な他者への責任を重視する「ケアの倫理」を提唱した。これは、単なる自己決定や抽象的な義務論とは異なり、他者を支える具体的な関係性やケアの営みを倫理的に評価する視点を提供するものである。
問5	答え 4 アパルトヘイト	アパルトヘイトは、南アフリカ共和国で1948年から法制化された人種隔離政策である。ネルソン・マンデラらの闘争や国際的な批判・制裁を経て1991年に廃止された。制度が廃止された後も、長年の歴史的背景によって形成された居住地域や経済格差などの構造的差別を解消することが現代社会の課題となっている。
問6	答え 1 第二反抗期	青年期には、他者への依存から脱却し、自己の主体性を確立するプロセスとして、親や年長者、社会的権威に反抗する時期が見られる。これは幼児期の第一反抗期に対して、精神的な自立を目指す重要な発達段階として位置づけられている。
問7	答え 4 原型	スイスの心理学者ユングは、個人の経験に基づく「個人的無意識」の奥底に、人類に共通して受け継がれている「集合的（普遍的）無意識」が存在すると提唱した。この集合的無意識の領域で、様々な文化の神話や伝承に共通して現れる普遍的なイメージのパターンのことを「原型（アーキタイプ）」と呼ぶ。これには「太母（グレートマザー）」や「老賢者」などのイメージが含まれる。
問8	答え 3 防衛機制	欲求不満や葛藤による心理的危機から、無意識に自己の精神的安定を維持しようとする心の働きを防衛機制と呼ぶ。オーストリアの精神分析学者フロイトらによって提唱された。これに対し、直面した課題に対して客観的な分析を行い、現実的かつ合理的に解決を図る行動は「合理的解決」に分類され、無意識の防衛機制とは区別される。
問9	答え 2 投射	自分の中にある受け入れがたい感情や欲求を、自分が抱いているのではなく、他人が自分に対して抱いていると思いつく防衛機制を投射（投影）という。これにより、自らの不快な感情を他者に転嫁して心の安定を保とうとする。抑圧された欲求と反対の態度をとる「反動形成」や、欲求を社会的に価値のある活動に置き換える「昇華」など、他の防衛機制との違いを理解しておくことが重要である。

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.9

名前

得点

/9

問1 伝統的な社会において、子どもから大人への移行を認めるために行われる、元服や成人式などの社会的な通過儀礼を何と呼ぶか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. アイデンティティ 2. パーソナリティ 3. カウンセリング 4. イニシエーション

問2 人々が互いの立場や世代による配慮の違いを乗り越え、対等な立場で対話を行い、合意を形成していくプロセスは、現代社会の課題を解決する上で重要である。ドイツの思想家ハーバーマスの提唱した、互いの理解を求め合う対話を通じて社会の合意形成を目指す理性的行為を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 道具的行為 2. 目的合理的行為 3. 戦略的行為 4. コミュニケーション的行為

問3 インターネットの普及に伴い、個人のプライバシーや特定の個人を識別できる情報の流出リスクに対する懸念が高まっている。日本において、こうした情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護することを目的として2003年に制定され、民間事業者による取り扱いに関する義務などを定めた法律は何か。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 特定秘密保護法 2. 個人情報保護法 3. 住民基本台帳法 4. 不正競争防止法

問4 青年は、子どもの集団から大人の集団へと移行する過渡期にあり、双方の境界に位置することから精神的な動揺や葛藤を経験しやすい。このような青年期の特徴を「境界人（マージナル・マン）」という概念で説明した、ドイツ出身の心理学者は誰か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. アドラー 2. ピアジェ 3. フロイト 4. レヴィン

問5 現代の高度資本主義社会において、人々は商品の実用的な機能（使用価値）を求めて消費するのではなく、他者との違いを示すための「記号」を消費していると指摘し、このようなシステムを「消費社会」として批判的に分析したフランスの思想家は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. マッキンタイア 2. アルチュセール 3. ホルクハイマー 4. ボードリヤール

問6 青年期における欲求不満への対処法（防衛機制）のうち、「社会への強い不満や自己の生き方に対する悩みを、小説の執筆や出版といった芸術的な表現活動に打ち込むことで解決しようとする」という事例に最もよく当てはまる心の働きを何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 投射 2. 代償 3. 昇華 4. 逃避

問7 人々を社会的に包摂するにあたり、単に一律の財を分配するだけでは、個人の身体的・社会的状況の違いによって、実際に実現できる生活のあり方に格差が生じてしまう。このように、画一的な支援の限界を指摘し、一人ひとりが「自らが価値を置く生活を営むことができる能力（潜在能力）」の拡大こそが重要であると説いた、インド出身の経済学者は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ロバート・ノージック 2. ジョン・ロールズ 3. ミルトン・フリードマン 4. アマルティア・セン

問8 現代社会では、進学率の向上や学校教育期間の延長などを背景に、一人前の大人としての義務や責任を一時的に免除され、自己形成に努めながら大人になるための準備を行う期間が認められる。この、青年期に特有の社会的猶予の期間を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. アイデンティティ 2. マージナルマン 3. モラトリアム 4. イニシエーション

問9 自らが所属する集団や民族の文化を絶対的な基準とし、その基準に照らして他の文化を低く評価したり、異質なものとして排除したりする態度や思考様式を何というか。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. エスノセントリズム 2. アカルチュレーション 3. ユーロセントリズム 4. カルチャーショック

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 4 イニシエーション	伝統的社会における成員の地位変化を伴う儀礼に関する問い。共同体の一員として、子どもから大人の仲間入りをする際に行われる試練や儀式は、通過儀礼（イニシエーション）と呼ばれる。現代社会においては、このような明確な境界線が薄れ、青年期が長期化する傾向にある。
問2	答え 4 コミュニケーション的行為	フランクフルト学派の第二世代であるハーバーマスは、科学技術の発展に伴って肥大化した「道具的理性」を批判し、他者との対話や理解を目指す「コミュニケーション的行為」の重要性を説いた。世代間や立場による言語行動や配慮の差異を認めつつ、対話を通じて合意を形成していくプロセスは、この行為の具体例と言える。
問3	答え 2 個人情報保護法	高度情報通信社会の進展に伴い、個人情報の不適切な取り扱いや流出を防ぐため、2003年に「個人情報保護法（個人情報の保護に関する法律）」が制定された。この法律は、個人情報の適正な取り扱いに関する基本理念や、民間事業者が遵守すべき義務などを定めており、個人の権利利益の保護を図ることを目的としている。
問4	答え 4 レヴィン	青年を子どもと大人の過渡期にある「境界人（マージナル・マン）」と位置づけたのは、ドイツ出身の心理学者レヴィンである。ルソーは青年期を「第二の誕生」と呼び、ハヴィガーストは青年期の発達課題を分類・整理した。
問5	答え 4 ボードリヤール	現代社会における消費のあり方を分析したフランスの哲学者・社会学者である。彼は、モノが持つ実用的な機能（使用価値）よりも、他者との「差異」を示す「記号」としての価値が消費の対象になっていると主張した。この記号消費のシステムにおいては、消費社会に対する批判や反抗すらも、新たな記号（個性や反逆のシンボル）としてシステム内部に回収され、消費の対象になってしまうと指摘した。
問6	答え 3 昇華	社会的に受け入れがたい衝動や満たされない欲求を、芸術や学問、スポーツなどの社会的・文化的に価値の高い活動に転換して解消しようとする心の働きを昇華という。小説の執筆や出版といった芸術活動に打ち込むことは、この防衛機制の代表的な具体例である。
問7	答え 4 アマルティア・セン	画一的な資源の分配だけでは、個人の多様なニーズに対応できず、真の共生や包摂は達成できないというジレンマに対し、個人の多様性を前提とした上で、各人が望む生き方を選択できる具体的な能力（ケイパビリティ）の向上を重視するアプローチを提唱しました。彼は、開発や福祉の目的を単なる経済成長ではなく、人間の自由の拡大に置いたことで知られています。
問8	答え 3 モラトリアム	現代社会における高学歴化や社会構造の複雑化に伴い、社会に出て自立するまでの期間が長期化している。このため、大人としての社会的責任や義務が一時的に猶予され、自己のアイデンティティを模索し、社会に適応するための自己形成や準備を行う期間が与えられる。これをアメリカの心理学者エリクソンは「心理社会的猶予期間」と名付けた。近年では、この期間が長期化する傾向や、大人への移行を拒む心理的傾向なども指摘されている。
問9	答え 1 エスノセントリズム	自民族中心主義とも呼ばれるこの概念は、自文化の優位性を前提に他文化を歪めて捉えるため、国際摩擦や偏見、差別の原因となる。これに対し、それぞれの文化に優劣をつけず、独自の価値を認めようとする態度を文化相対主義という。

問1 子どもと大人の二つの集団の境目に位置し、どちらの集団にも完全に所属しきれないために不安定な精神状態に置かれている青年期の人々を「マージナル・マン（境界人）」と名付け、その心理的特徴を分析したドイツ出身の心理学者は誰か。 (2025年

全国公立入試 類似)

1. シュブランガー 2. レヴィン 3. ルソー 4. エリクソン

問2 人間の情念について、怒りそのものはそれ自体で善悪を決定できるものではなく、理性的「分別」の有無によって評価されるべきであり、時には社会の不正をただす契機となるような適切な怒りも必要であるとして、感情と理性の調和による中庸の徳を説いた古代ギリシアの哲学者は誰か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. エンペドクレス 2. アナクサゴラス 3. ヘラクレイトス 4. アリストテレス

問3 近年の日本における家族構成の変化において、高齢化や未婚化、単独世帯の増加などに伴い、総世帯数に占める割合が一貫して減少傾向にある、祖父母・夫婦・子どもなどが一つ屋根の下で共に暮らす世帯の区分を何というか。 (2010年 全国公立入試 類似)

1. 核家族世帯 2. 三世帯同居世帯 3. 高齢単身世帯 4. 高齢夫婦世帯

問4 著書において、人間が作り出した化学物質や農薬の散布が、長年にわたり均衡を保ってきた自然の生態系を破壊することに強い警鐘を鳴らした、アメリカの海洋生物学者は誰か。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. レイチェル・カーソン 2. アルド・レオポルド 3. ワンガリ・マータイ 4. シーア・コルボーン

問5 青年期において、同時に満たすことのできない複数の欲求や目標の間で板挟みになり、選択や決定ができずに精神的な緊張や不安が生じる心理的状态を、心理学の用語で何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 葛藤 2. 抑圧 3. 挫折 4. 昇華

問6 従来 of 絵画や彫刻が追求してきた視覚的な調和や美しさがなくとも、既製品をそのまま展示するなどの手法を通じて鑑賞者の思考を揺さぶり、心を動かすことができるという現代アートの先駆的な試みを行った、代表作『泉』で知られるフランス出身の芸術家は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. マグリット 2. シャガール 3. デュシャン 4. ウォーホル

問7 1960年代の欧米における若者文化の代表例であり、既成の物質文明や社会的規範を否定し、自然への回帰や平和、人間性の回復を訴えて、共同生活などを営んだ人々やその運動を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. ビートニク 2. モッズ 3. パンクス 4. ヒッピー

問8 現代社会において、支配的な価値観や体制に対して異議を唱え、新たな価値観や生活様式を提示する文化のあり方を何というか。若者世代を中心に生み出され、既存の秩序を批判し、時に社会変革を促す原動力となるものを指す。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 若者文化 2. 大衆文化 3. 高級文化 4. 対抗文化

問9 青年期において、一人前の社会人としての責任や義務を果たすことが一時的に猶予されている期間を、エリクソンは何と呼んだか。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. アバシー 2. モラトリアム 3. マージナルマン 4. アイデンティティ

問10 地球温暖化や資源の枯渇といった環境問題は、現代の人間活動が未来の人々に深刻な影響を及ぼすことを示している。このように、今を生きる人々が、まだ生まれていない未来の人々の生存や良好な環境を保障するために負うべき倫理的な責任を指す、環境倫理学における重要な考え方を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 世代間倫理 2. 環境倫理学 3. 自然の権利 4. 世代内倫理

問11 人間は生態系の征服者ではなく、生物共同体の単なる一構成員にすぎないとし、大地や動植物を含む自然全体を道徳的配慮の対象とすべきだとする、アルド・レオポルドが提唱した環境倫理の概念を何というか。 (2022年 全国公立入試 類似)

1. 動物解放 2. 土地倫理 3. 生命中心 4. 生命畏敬

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 2 レヴィン	青年期を「マージナル・マン（境界人・周辺人）」と名付けたのはレヴィンである。彼は、青年が子どもから大人へと移行する過渡期において、二つの異なる社会集団の境界に位置することから生じる心理的な不安定さを指摘した。エリクソン（アイデンティティの提唱者）やホリングワース（心理的離乳の提唱者）など、他の心理学者との区別が求められる。
問2	答え 4 アリストテレス	アリストテレスは『ニコマコス倫理学』において、喜びや怒りなどの情念それ自体は善悪の評価対象ではなく、それらが理性的分別（思慮）に従って、適切な状況で適切な程度に発揮されること（中庸）が徳であると説いた。怒りについても、不当な事態に対して適切に怒ることは、社会の不正をただす契機ともなり得るため、温厚という徳の一部として肯定的に評価される。
問3	答え 2 三世代同居世帯	1980年代以降の日本の家族構成では、高齢化や未婚化、核家族化の進行により、単独世帯（一人暮らし）の割合が増加する一方、祖父母・親・子が共に暮らす世帯の割合や、世帯の平均人数は減少傾向にある。また、夫婦と子のみからなる世帯の割合も減少している。
問4	答え 1 レイチェル・カーソン	『沈黙の春』の著者である彼女は、生命が環境に適応するには何千年もの時間が必要であり、急激に導入された人工的合成物に生命が適合できるかどうかは不明であるとして、農薬などの化学物質の危険性を指摘した。彼女の告発は、アメリカにおけるDDTの使用禁止や、地球規模での環境保護運動の契機となった。
問5	答え 1 葛藤	複数の欲求が同時に対立し、どちらを選択すべきか決定できない心理的状态を「葛藤（コンフリクト）」と呼ぶ。レヴィンはこれを「接近」と「回避」の組み合わせによって3つの類型に分類した。
問6	答え 3 デュシャン	20世紀初頭、従来の芸術概念を根底から覆す試みが現れた。彼は、男性用便器に署名を施しただけの作品『泉』を発表し、芸術作品における手仕事の価値や視覚的な美の絶対性を否定した。このような既製品を用いた表現は、作品そのものの美しさではなく、作品が提示する概念や問いかけによって鑑賞者の心を動かす現代アートの源流となった。
問7	答え 4 ヒッピー	1960年代のカウンターカルチャーの代表的な動きとして、物質主義的な社会から離脱し、自然回帰や平和、愛を掲げて独自のライフスタイルを実践した若者たちの運動がある。彼らはヒッピーと呼ばれ、音楽やファッションなど後世の文化にも大きな影響を与えた。
問8	答え 4 対抗文化	支配的な文化や既存の体制・価値観に対抗し、それを批判・否定する形で形成される文化を対抗文化（カウンターのカルチャー）と呼ぶ。1960年代のアメリカにおけるヒッピー運動や反戦運動などがその代表例であり、若者世代を中心に既存の秩序を揺るがし、社会変革を促す役割を果たした。
問9	答え 2 モラトリアム	エリクソンは、青年期を大人としての社会的責任や義務が猶予される期間として捉え、これを「社会的モラトリアム」と呼んだ。この期間は、自己を見つめ直し、アイデンティティを確立するための重要な準備期間とされる。
問10	答え 1 世代間倫理	現代の世代が資源を浪費したり環境を破壊したりすることは、将来生まれてくる世代の生存基盤を奪うことにつながる。このため、現在の世代は未来の世代に対して、生存可能な環境を維持し引き継ぐという倫理的責務を負っているとされる。この考え方は持続可能な開発（発展）の思想的基礎ともなっている。
問11	答え 2 土地倫理	アルド・レオポルドは、従来の人間中心主義的な倫理の範囲を、人間関係から社会、そして土地（自然環境全体）へと拡張することを主張した。この思想は、人間が生態系という共同体の一員として、他の構成員やシステム全体を尊重し、調和して生きるべきだという現代の環境倫理の基礎となった。